

護摩焚きの儀式

護摩焚きの儀式では、僧侶がお経を唱えながら、木の板や紙に書かれたお札を燃やす。儀式の火は二つの役割を果たす。それは神々への祈りを運び、すべての人間の苦しみの原因である執着や欲望を燃やすのである。

火は仏壇の前の特別な場所に建てられています。祭壇の中央に五大明王の長として立つ不動明王に祈りを捧げている。天台宗の本尊である大日如来の姿である。

護摩焚きの儀式は、日本の密教、特に真言宗・天台宗では一般的に行われている。元々はインドの儀式であったが、千年以上前に日本に伝わった。

用意されている木の板に祈りを書いて、赤い箱に入れる。それを次の護摩の儀式でお供えする。この神事は毎日午前 7 時 30 分、午前 11 時、午後 2 時に行われる。